

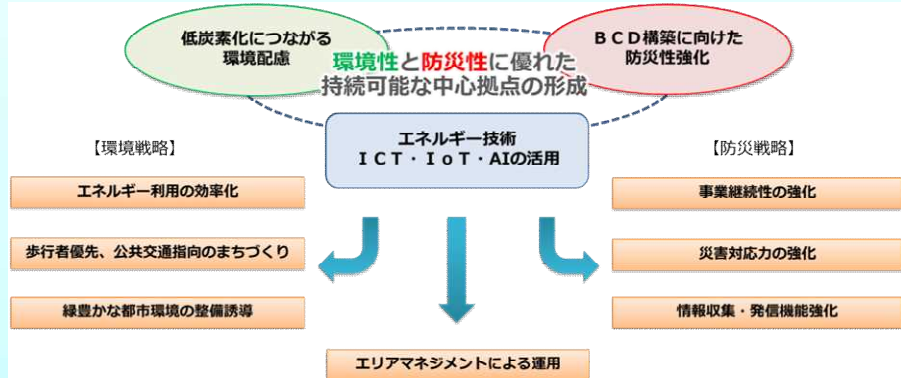
東京都中野区（平成29年12月28日作成）

- 中野駅周辺まちづくりにおける地球温暖化対策を視野に入れた環境への配慮や、まち全体の防災性強化の必要性を踏まえ、環境性・防災性に優れた持続可能な中心拠点の形成を目指すため、低炭素まちづくり計画として「スマートな環境防災都市づくり戦略」を策定。
- エネルギーの効率的な活用に関する取組みは、都市の低炭素化を推進する上で、災害時業務継続地区（BCD）に関するエネルギー施策との親和性が高いことから、中野駅周辺におけるBCD形成や防災性向上も見据えた計画。

■低炭素まちづくりの将来像及び基本方針

環境性と防災性に優れた持続可能な中心拠点の形成

地球温暖化対策を視野に入れた低炭素化につながる環境配慮とともに、業務継続地区（BCD）の構築に向けた防災性強化によって、グローバル都市にふさわしい環境性と防災性に優れた持続可能な中心拠点の形成を目指す。



■目標を達成するための具体的施策

<環境戦略>低炭素化につながる環境配慮

中野駅周辺各地区のプロジェクトに伴ってグローバルな都市活動が活発化することを踏まえ、地球温暖化対策を視野に入れた低炭素化につながる環境配慮に基づき、都市づくりを誘導する。

エネルギー利用の効率化

環境性の向上を図るとともに、災害時の事業継続性確保のため、自立分散型エネルギーシステム等の導入を検討。

歩行者優先・公共交通指向のまちづくり

公共基盤整備によって交通結節機能の強化を図るとともに、環境負荷の小さい公共交通機関の利用を促進。

みどり豊かな都市環境の整備

みどりの拠点としてふさわしい良好な環境の維持を図るとともに、みどりのネットワークの形成やオープンスペースを創出。

<主な取組み>

- 自立分散型再生可能エネルギーの導入
- エネルギー・マネジメントの運用
- 再整備にあわせた交通結節機能の強化
- 地域ルールの検討・策定
- 地区内のまちづくりにあわせたみどりのネットワークの形成
- エリアマネジメント



<防災戦略>BCD構築に向けた防災性強化

中野四季の都市における防災性の向上とともに、中野四丁目新北口地区及び囲町地区のまちづくりや新区役所の整備を契機として、業務継続地区（BCD）構築による防災性強化を図る。

事業継続性の強化

災害対策本部としての新区役所の整備や業務集積が見込まれる再開発を踏まえ、災害時における事業継続性を強化。

災害対応力の強化

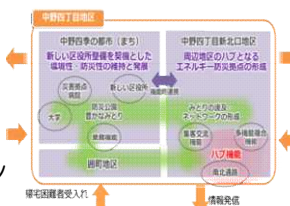
屋内外の空間創出により、災害時における滞留空間を確保し、帰宅困難者等を円滑に受け入れるための機能を拡充。

情報収集・発信機能強化

情報プラットフォームの構築や情報のユニバーサルデザイン化を図るため、ICT・IoT・AIによる情報収集・発信機能を強化。

<主な取組み>

- 新区役所における自立分散型電源の整備
- エネルギーネットワークの展開
- 再整備によるオープンスペース等の整備
- 災害時における受入空間の確保、協定の締結
- 平常時・非常時におけるICT・IoT・AI活用
- 官民連携の情報共有・発信体制の構築



■対象区域



- 戦略対象区域（32ヘクタール）
- 中野駅周辺まちづくりランドデザインVer.3対象範囲（110ヘクタール）

■計画の目標

第3次中野区環境基本計画におけるエネルギー消費量の削減目標に寄与していくため、具体的施策を推進する。

■CO₂排出量の削減目標（参考指標）

年度	CO ₂ 排出量の削減指標
平成24年度	106.2万t(実績)
平成32年度	100.6万t(5.6万削減、△5.3%)
平成37年度	90.1万t(16.1万削減、△15.2%)

■計画期間

平成29年度（2017年度）から平成43年度（2031年度）の間、3期に分けて計画を推進。